

薬剤耐性 HIV ウイルス対応 Knowledge Book ; 日越専門家の議論は続く
(2023 年 5 月 26 日)

本 SATREPS プロジェクトの目標であるベトナムにおける HIV/AIDS 対策の政策に係る提言に向けて、プロジェクトでは HIV ウイルスの薬剤耐性に臨床現場がどう対応すべきかを「Knowledge Book」としてまとめようと動き始めました。[2023 年 3 月 2 日ニュースレター](#)でも紹介した編集者会議を経て、各章担当でドラフト作成を引き続き努力しており、現在はドラフトに対し日越の専門家同士で意見を交わす段階に入りました。



オンライン参加者もいるハイブリッド形式は難しさもありつつ、直接顔を合わせての議論と併せ、編集の進展が見られました。



メインカウンターパートである NHTD にて、プロジェクトの進捗と、Knowledge Book 作り、その他課題について議論

今回は国立国際医療研究センター（NCGM）-エイズ治療・研究センター（ACC）の田沼医療情報室長のハノイ出張の機会を捉えて、二回目の編集者会議を保健省 HIV/AIDS 予防局（VAAC）と開催しました。実質的なベトナム側の編集委員である同局 HIV 治療室長の Dr. Nhan を始め、国立熱帯病病院（NHTD）の医師やハノイ・ホーチミンの検査機関からの参加者と様々な議論が行われました。プロジェクトから得られた最新の研究成果、HIV 治療・検査における世界の潮流とベトナムの実情等、意見が一致するところもあれば、ある論点についてはそれぞれの立場から議論が白熱する場面もありました。議論結果を包括した提案が盛り込まれた冊子となるよう、専門家同士の議論は続きます。

また今回田沼室長のハノイ訪問を機に、プロジェクトに参加している幾つかの地方病院を視察、これまでのプロジェクト活動への評価を聴取し、最終年度にできることを探りました。併せて、世界保健機関（WHO）が提唱する、HIV と感染経路の近い肝炎・性感染症への総合的なアプローチについて、地方病院の現状把握とともに、プロジェクト・NCGM-ACC や NHTD

ができることについても議論しました。特に、C型肝炎との重複感染が大きな問題で、訪問した地方病院からはこうした問題への危機感が寄せられました。



HIV 専門病院である 09 病院では、2019 年プロジェクト開始直後から参加してきた医師・看護師の皆さんに活動への意見を拝聴



HIV 新規感染者が多く集まる Nam Tu Liem 区医療センターでは、最新の HIV 治療動向と、C型肝炎重複感染の問題を議論

全ての問題に本プロジェクトの枠内で対応しきれないわけではありませんが、HIV を取り巻く感染者の状況、医療機関における現状について理解することは、プロジェクト活動においての各種セミナーをより効率的に・効果的に行うためにも大変重要です。